

2026年10月4日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

途中代行：小川万理子

1. 概要

歩行名称	北海道ブロック（5）
歩行区間	スタート地点：道の駅おびら ゴール地点：宗谷岬
実施期間	2024年6月16日（日）～6月22日（土）
全歩行距離	199km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	67	3日	ワングルOB24期
2	記録・運転	森 正昭	81	3日	ワングルOB9期
3	記録	味沢 俊治	68	3日	坂本徹の大学1期先輩
4	記録・運転	岸田 英子	75	3日	坂本徹所属の山の会会員
5	記録	坂本 和子	61	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
6	記録	米澤 俊枝	74	3日	坂本徹所属の山岳会会員
7	記録・運転	笠井 浩	62	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
8	記録	笠井 初子	65	3日	坂本徹所属の山岳会会員OB
9	記録・運転	渡辺 正敏	71	3日	坂本徹所属のスキークラブ会員
10	記録・運転	小川万理子	64	3日	坂本徹所属のスキークラブ会員

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	6/16	・首都圏居住者：羽田空港⇒稚内空港へ ・松江市居住者：6/14 松江市からマイカーで舞鶴港に移動、6/14夜発小樽港行フェリー⇒6/15夜小樽港着小樽泊⇒稚内空港 ・15時00分ニッポンレンタカー稚内空港前営業所にて参加者全員が参集 ・レンタカー及び渡辺車羽幌町の宿舎に移動	—	
2	6/17	【海岸線歩行第1日目】 道の駅おびら⇒遠別町役場	71.5 Km	メンバー表記載の10人

3	6/18	羽幌港 8:00 発 (高速船) ⇒ 焼尻 8:35 着 ⇒ 焼尻島内巡り ((焼尻島内をサイクリング) → 焼尻 15:10 発 (フェリー) ⇒ 天売 15:35 着 ⇒ 宿舎 (民宿竹内: フェリーターミナル近く)	—	同 上
4	6/19	○天売島の島一周 (周囲 12 km) トレッキング ○天売 15:50 発 ⇒ 羽幌港 17:25 着 ⇒ 宿舎 (羽幌町・旅亭富士屋)	—	同 上
5	6/20	【海岸線歩行第 2 日目】 ○ホテル 8 時 00 分発 ○宿舎 (羽幌町・旅亭富士屋) ⇒ <42 km> ⇒ 遠別町役場 (歩行起点) → こうぼねの家 (歩行終点) ⇒ 宿舎 (ニュー温泉閣ホテル)	66.5 km	同 上
6	6/21	【海岸線歩行第 3 日目】 ○ホテル 8 時 00 分発 ○宿舎 (ニュー温泉閣ホテル) ⇒ サロベツ原生花園: 歩行開始前にサロベツ原生花園に立ち寄り (下サロベツ原野自然探勝路: 3 km、サロベツ湿原センター木道: 1 km) は全員が歩行 ○サロベツ原生花園 ⇒ こうぼねの家 (歩行起点) → 宗谷岬 (歩行終点) ⇒ 宿舎 (ホテル深雪)	61.1 km	
7	6/22	○午前中: 名所旧跡巡り ○稚内空港 12:30 着 (渡辺夫妻のマイカーとレンタカーは空港駐車場 (無料に駐車) ○12:30~13:30 エアポートレストランで昼食 任意企画参加者 (礼文島トレッキングと利尻岳登山: 稚内空港 12:30 着) と交流 ○解散・帰途に	—	
合 計			199.1 km	

4. 参加費・費用

(1) 歩く会会費 (参加費) 参加者延べ日数 3 日 * 100 円 (10 人分) 合計 3,000 円 (一人 300 円)

(2) 一人当たりの費用

- ① レンタカー (借料・保険 8,965 円、マイカー利用料 1,750 円、ガソリン代 2,100 円) 12,815 円
- ② 宿泊料 1 泊目: 旅亭富士屋 (1 泊 2 食付) 旧館 9,460 円~10,010 円、新館 10,560 円~10,890 円
2 泊目: 旅亭富士屋 (1 泊 2 食付) 旧館 9,460 円~10,010 円、新館 10,560 円~10,890 円

3泊目：民宿竹内（1泊2食付）民宿貸切4部屋 7,300円

4泊目：旅亭富士屋（1泊2食付）旧館9,460円～10,010円、新館10,560円～10,890円

5泊目：ニュー温泉閣ホテル（1泊2食付）1室2名 9,280円

6泊目：ホテル美雪（素泊り） ツイン 7,000円

宿泊料の合計

52,020円～56,280円

③ 飲食代 1日目（6/16）夕食時飲み物代

0円～1,800円

2日目（6/17）夕食時飲み物代

300円～600円

3日目（6/18）夕食時飲み物代

850円～1,200円

4日目（6/19）夕食時飲み物代

300円～600円

5日目（6/20）夕食時飲み物代

210円～550円

6日目（6/21）夕食・交流会代

3,000円～4,000円

飲食代等の合計

4,660円～8,750円

④ 通信費・資料代・記録写真集代

2,500円

⑤ フェリー代（羽幌⇒焼尻1,600円、焼尻⇒天売730円、天売⇒羽幌2,330円）

4,460円

⑥ 焼尻島レンタサイクル800円、天売島ナイトツアー2,000円

2,800円

①～⑥ 総計

79,255円～87,605円

（3）その他各自支払費用

① 稚内空港往復チケット

② 交通費（羽田までの交通費、並びに稚内空港までの高速代・フェリー代）

③ 昼食代、お土産等は各自支払

5. 歩き方

（1）歩行の班編成：4班（各班2～3名）で分担・分割方式で歩行

・メンバーの体力を勘案して、ハヤブサ班（20km程度）とチーター班（15～18km程度）とウサギ班（12～15km程度）とカメ班（10km程度）の4班に編成し1日65km程度を歩行

・班編成の同行者は、2回同じ班とならないように配置しました。

	班と歩行距離	班 長	メンバー	
6月16日 初日：観光と下見	駐車場下見場所（必須箇所）：稚内市立富磯小学校、稚咲内海岸、北緯45度モニュメント、有明特別母と子の家		全 員	
6月17日 歩行距離：71.5km	ハヤブサ班 20.0km 道の駅おびら→道の駅とままえ	笠井浩	坂本和子	
	ウサギ班 17.8km 道の駅とままえ→有明特別母と子の家	米澤俊枝	岸田英子	森正昭

宿泊地：羽幌町	カメ班 14.1 km 有明母と子の家→みさき台公園駐車場	渡辺正敏	小川万理子	
	チーター班 19.6 km みさき台公園駐車場→遠別町役場	坂本徹	笠井初子	味沢俊治
6月18日 宿泊地：天売島	焼尻島：レンタサイクリング 天売島：ウウの帰巣ナットツアー	全 員		
6月19日 宿泊地：羽幌町	天売島：1周トレッキング 12 km	全 員		
6月20日 歩行距離 66.5 km 宿泊地：羽幌町	チーター班 19.3 km 遠別町役場→道の駅てしお	笠井浩	笠井初子	
	ウサギ班 15.2 km 道の駅てしお→北緯 45 度モニュメント	味沢俊治	岸田英子	
	カメ班 12.2 km 北緯 45 度モニュメント→稚咲内海岸	坂本和子	森正昭	渡辺正敏
	ハヤブサ班 19.8 km 稚咲内海岸→こうほねの家	坂本徹	米澤俊枝	小川万理子
6月21日 歩行距離 61.1 km 宿泊地：豊富町	ハヤブサ班 19.8 km こうほねの家→稚内温泉童夢	笠井浩	味沢俊治	
	チーター班 16.9 km 稚内温泉童夢→声問岬	坂本徹	坂本和子	
	ウサギ班 12.8 km 声問岬→稚内市立富磯小学校	米澤俊枝	岸田英子	渡辺正敏
	カメ班 11.6 km 稚内市立富磯小学校→宗谷岬	笠井初子	森正昭	小川万理子
6月22日	○名所旧跡巡り ○昼食は、稚内空港のスカイレストラン にて礼文島トレッキング・利尻岳登山の参加 者 4 名と交流しました	全 員		

[注] ① レンタカーはニッポンレンタカー稚内空港店で借受、礼文・利尻参加者（4 名：坂本徹、鈴木孝雄、鈴木雄子、上西敬子）に引き継いで（礼文・利尻参加者から 2,000 円徴収）、6 月 22 日 14 時に稚内駅前店で返却（乗り捨て料金無料）

② 宿舎は、エコノミーな宿（2 食付きで飲物代含めて 1 万円以内を目途）としました。

（2）歩行の効率化のためレンタカー 1 台（カラーラフィルダー 5 人乗り）と渡辺マイカー（ステップワゴン：使用料として一日 2,000 円支払）を併用

Map showing the route from Nishino Arima to Aomori Bay. The route is marked with a blue line, and the starting point is marked with a red dot. The map includes labels for various locations such as Nishino Arima, Aomori Bay, and several towns along the coast.

(1) リーダー報告：坂本 徹

参加者は、第1回～第5回の歩行参加の味沢俊治さんと坂本徹。第2回～第5回の歩行参加の岸田英子さん、第2回・第4回の歩行参加の米澤俊枝さん、第3回～第5回の歩行参加の坂本和子さん、第4回・第5回の歩行参加の笠井浩さんと笠井初子さんと渡辺正敏さんと小川万理子さん、第1回歩行参加の森正昭さんで、参加者全員が北海道歩行経験者となり、総勢10人となりました。班編成は4班編成とし、計画どおり3日間の歩行で道の駅おびら⇒宗谷岬までの総距離199kmを完歩できました。

日本の海岸線を歩く旅は、「日本再発見の旅」「人との出会いの旅」「参加者の交流と結束によるチーム力発揮の旅」と考えています。参加者は、北海道の絶景や名所旧跡などに出会い、現地の人々と交流し、北海道の歴史を垣間見て、新たな発見があったことと思います。また、お互い交流を深め、健康で歩ける幸せを感じながら歩く旅ができたと思います。

今回も第1回～第5回と同様に参加者間の連絡手段として、グループLINEを作成しました。各班から歩行状況と写真が頻繁にアップされて、一緒に歩行しているという一体感を持つことができました。



第6回歩行スタート地点の道の駅おびら鯨番屋にて集合写真



第6回歩行ゴール地点宗谷岬にカメ班が到達後、全班集結して集合写真

《1日目（6月16日）》 天気 曇り時々雨 ： 羽田空港から稚内空港へ移動。舞鶴～小樽フェリー経由の渡辺マイカーとレンタカーにて駐車場を下見した後、羽幌町へ移動

先発隊3人（羽田空港10時40分出発組：味澤俊治、笠井浩、笠井初子）は、12時55分、20分ほど遅れて稚内空港に着いた。小樽までフェリーで来てマイカーを運転してきた渡辺夫妻の出迎えを受けた。5人で空港レストランにて昼食。その後空港近くの大沼を散策して後発組を待った。大沼は白鳥の飛来地だがさすがにこの時期には一羽もいなかった。湖畔で開業準備中のテントサウナを見せてもらう。景色を眺められるドームテントもあって楽しめそう。



舞鶴港にて新日本海フェリーとマイカー



羽田空港から稚内空港へ



空港レストランにて

大沼バードハウスの
ドームテントとサウナハウス



レンタカー会社で後発組 5 人（羽田空港 12 時 40 分出発組：坂本徹、坂本和子、米澤俊枝、岸田英子、森正昭）と合流。15 時出発。レンタカーを借りて明日からの歩行予定ルートに沿って南下する。途中歩行時に配車した車を駐車する場所を下見しながら走る。雨で対岸に見えるはずの利尻富士は全く見えなかった。18 時過ぎ今夜の宿「料理旅亭富士屋」に着いた。名前の通り宿の料理はおいしかった。

（笠井浩 記）



レンタカー会社前で全員集合

《2 日目（6 月 17 日）》 天気 曇りのち晴れ：道の駅おびら→71.5 km→遠別町役場

6 時 30 分からの朝食を済ませて 8 時 00 分にロビーに集合した。今朝の歌（銀色の道）を合唱、ミーティングをし、レンタカーで歩行開始地点に向かって 8 時 10 分出発。

【ハヤブサ班：道の駅おびら→20.0 km→道の駅とままえ】メンバー：笠井浩、坂本和子



道の駅おびら出発

9 時小雨の中道の駅おびらを出発、前回持ち越した旧花田家番屋は休館で、またしても中を見学することは出来なかった。10 分程歩いて番屋沢川の橋を渡った所で海岸に近い堤防に出て内側を歩く。雨は心配する程のこともなく止んだ。

温寧川に架かる橋を渡り 9 時 30 分鬼鹿漁港、続く「おにしかツインビーチ」という海水浴場を通過する。

9 時 50 分小種子川を渡った先で、広い砂丘に出る。波によって押し上げられた砂で小さなミニ砂丘ができ、それを乗り越えた波が回り込むように川とな

って流れを作っていた。海岸砂丘の初めの一步だ。



10 時 20 分千松バス停で休憩。その後は左側に海を眺めながら道路を歩く。

11 時 8 分サカエノ沢川の橋を渡り苫前町に入る。少しづつ青空が広がって来た。

11 時 30 分力昼（りきびる）漁港で昼食、ホタテの漁具が大量に積まれている。風は依然として強い。更に道路を進み、命名の由来に首を傾げたくなるような形状の「ローソク岩」を左に見ながら先を急ぐ。この辺りは「グリーンヒルウインドパーク」として風力発電の風車があるはずなのだが、高台に設置されているらしく、

道路はその真下を通っているので姿はあまり見えなかった。しかし、道路の右側に旧羽幌線の痕跡らしきものを何度か目には出来た。

13 時立派な建物の上平バスターミナルで休憩。

13 時 30 分古丹別川に架かる苫前橋の先の道端で、苫前町水田発祥の地の碑を見つける。そのままどこまでも真直ぐの国道を歩く。14 時 15 分苫前町役場の前で大きな「とままえベアー」の像を見ながら進むと、14 時 27 分程なくゴールの道の駅とままえに到着する。

ピックアップ予定のウサギ班の動向を確認し、15 時 15 分まで「とままえ温泉ふわっと」で入浴した後、ウサギ班のゴールに車で向かう。途中、道路を歩いているウサギ班 3 人を追い越し、15 時 40 分有明特別母と子の家に到着、ウサギ班のゴールを待ち受ける。



(坂本和子 記)

苫前町に入る



苫前町水田発祥の地の碑



道の駅とままえ到着

【ウサギ班：道の駅とままえー17.8 km→有明特別母と子の家】メンバー：米澤俊枝、岸田英子、森正昭



道の駅とままえ出発

1987 年（昭和 62 年）に廃線となった留萌・羽幌線の線路跡が、232 号と並行し残っている初めての行動なので、二人から質問がひっきりなしに飛んできて賑やか。

10:23～10:35 「沿岸バス・興津内下バス停」で休憩、3 人で休憩するには程よい広さ。

羽幌町に入ったところで、大きなオロロン鳥が出迎え。オロロン鳥ってこんな巨大なのか？

その先で、港の方へ入ってみる。明日からのフェリーもここから出るようだ。

この街の中の道路は、国道よりも幅が広く、その上歩道も 5m 幅はあるだろう。

話し相手を探しながら行くと、道端の花壇を手入れしている「井原さん」と出会った。

「元ダンプの運転手で、冬場は除雪車で主に歩道の担当。天売島の出身」「この辺は風が強く、冬場、向かいの歩道は雪が腰くらいたまることがある」とのこと。

12:25～13:00 はぼろ温泉サンセットプラザ ロビーでどうぞと言われ、やっと昼食となった。

外からの入浴客も OK のようだ。

予報通り午後から日差しもあり、追い風が心地よく、歩きやすい。牧草を刈ったあとと地で、キツネの親子が遊んでいる、のどかな風景はさすが北海道です。

14:05～14:20 羽幌町境界のおろろん鳥

下りの先に「ホワイトビーチ」のような崖が見えてくる。

9:30 道の駅・とままえ出発＜写真 R0617-1＞、232 号線（日本海オロロンライン）を 3 人で歩く。車の往来は多くなく、歩道があるのもありがたい。ミヤマシシウドやイタドリがやたらと元気。夏草に埋もれた廃屋は時の流れであろう。



夏草に埋もれた廃屋



巨大オロロン鳥のお出迎え



井原さんと

築別川を渡ったところで、ライダーがオートバイを止めて、写真を撮りに行った。湘南ナンバーである。岸田さんは目ざとく、「あれは女性よ」という。「これから稚内まで行って礼文島に渡る」とのこと。

こちらにも女性がいるので安心したか、写真を一緒に撮らせてくれた。

15:25～15:35 有明高台バス停で、休憩

あとワンピッチということで、元気が湧き、歌声も高らか。川に向かって下っていくところで、笠井さんが運転する車が追い越していった。

16:00 有明特別母と子の家 到着、今日の歩行はここで終了、ピックアップされる。

16:20 はぼろ温泉サンセットプラザに立ち寄り入浴、その後バラ園で身も心も癒す。

17:30 今日の宿・富士屋到着



湘南レディースライダーと

(森正昭 記)



あと少し

ゴール地点

有明特別母と子の家



【カメ班：有明特別母と子の家ー14.1 km→みさき台公園駐車場】メンバー：渡辺正敏、小川万理子

9:58 小雨がパラパラする中、雨具を着こんで「有明特別母と子の家」をスタート。風も強く白波が打ち寄せる海岸線を遠目に見ながらバス路線の歩行となる。歩道らしきものはあるものの草に占領され歩ける状態ではなく、ひたすら路肩を。昨年と同時期であるのに緯度が高くなったためか麦畑が広がっていたり、大量のおいしそうな蕨が生えている。道草をしたいところだが天候も思わしくないので、ひたすらゴールへ向かうことに。



スタート地点の有明特別母と子の家

10:58 茂勢滝内橋に差し掛かったところで一台の軽トラが近づいてきた。

「昨日クマがそこで目撃されているから気をつけて！」

なんと先ほど蕨を摘もうとしていたところではないか。慌てて近くのバス停に駆け込み、熊よけ鈴を装着する。心なしか早歩きに。

11:35 少し早めの昼休憩。まっすぐな道路と標識以外何もないルート上にポツンとプレハブの作業小屋があり、風の当たらないところでほっと一息。

11:49 再出発。青空が見えてきた。

12:19 道路を横断するキタキツネの親子に遭遇。

12:35 残り4キロ地点通過。初山別川を渡ると初めての集落。漁港をめぐるって初めて海の近くまで行くことができた。小さな漁村なのにおしゃれなマンホールを見つけた。



集落を抜け、再び国道へ戻りゴールを目指す。一直線に続く道路。道路と平行して走る鉄橋跡。牧草地に直接肥料を散布するトラック。広大な大地を満喫しながら歩き続ける。

13:44 天文台まで900m

13:56 車発見。ゴール地点（みさき台公園駐車場）到達
振り返れば天候が悪いからと昼食を食べた時以外休憩なし。その分温泉時間が取れた。天気が良ければ天文台の後ろ

に利尻が見えるらしい。温泉施設の写真で見た気分になってピックアップに向かった。

(小川万理子 記)



向こうに利尻山が見えるはず・・・



みさき台公園駐車場ゴール



昨日熊が・・・!?

【チーター班：みさき台公園駐車場→19.6 km→遠別町役場】メンバー：坂本徹、笠井初子、味澤俊治

朝からかなり寒い。去年の最終到達地の小平番屋からスタート。ここで200人が寝泊まりし、鯨漁に従

事したという。終戦直後、樺太からの引揚者 1704 人が遭難したという慰霊碑がたつ。



みさき台公園出発

みさき台の集落を抜け 11 時 6 分からひたすら国道を北に歩行開始。右側に水田。その遠方にはるかに鉄道跡らしき土

塁とトンネルも見える。低木が覆った小さな小山になった砂丘が美しい風景をつくっている。11 時 36 分、ようやくであったその先のそこは廃校跡か、そこで昼食。校庭に生い茂る雑草にまじって咲いているシャクヤクやショウブに、かつての人々の営みが残る。浜に下りようと国道から数十メートル右に折れ、風力発電の風車のところまで上がる。風車のうちのひとつが動いていない。よく見ると地上の配電装置の扉が壊されて、中の部品がない。盗難か。「共生」集落への分岐を両側にクローバー畑と麦畑を見ながら旧道の未舗装の道を浜に向かう。旧歌越橋を渡り浜に出ようとするも、テトラポットに阻まれ難しい。森のなかを歩きようやく 13 時 35 分、砂浜に下りる。「モオタコシベツ川」の河口は、も大きく湾曲して砂州を形成しているものの、水量が多く渡渉を断念。河口から 100m ほど上流に旧道、旧鉄道、現国道の橋が見えるので、藪掻き 10 分国道に出る。そのあと 13 時 53 分、ふたたび浜へ。5~10m の砂が固まってできた崩れやすい崖を右手に 45 分ほど歩く。「金浦原生花園」を目標に国道に出てそこで休憩し、15 時 20 分、再び浜に向かう。「河川公園」の手前の「クマウシュナイ川」、海への出口付近で小さな潟湖を形成し、幅 1 メートルほどの河口をもつ。味澤はジャンプし渡渉成功するも着地で転倒。坂本徹さんは見事に着地するも、潟湖に近い側の砂浜は沼状の湿地となっており両足を膝まで取られ抜け出すのに数分。最後の笠井初子さんは 2 人を教訓に裸足で波打ち際の砂浜を難なく余裕で渡渉。16 時 30 分、「みなくなるビーチ」に到達。名前にそぐわず、雑草に覆われ荒廃している。昭和 46 年に完成した「遠別橋」をわたり遠別町役場に 16 時 50 分到着。

(味澤俊治 記)

チーター班の出発地は本日の行程一番前方「みさき台公園」。10 時 30 分出発。岬の崖の小さな海食洞に金比羅宮が祀られ赤い鳥居が海に向かって立つ。昭和 56 年に地元の網元が祀ったもの。



金毘羅宮の鳥居前で



海岸線を歩行



クマウシュナイ川



みなくるビーチ夕日のモニュメント前で



ゴール！遠別町役場

《3日目（6月18日）》 天気 くもり時々雨：焼尻島～天売島



羽幌フェリーターミナルにて



少し早めてもらい6時50分から朝食をとるが、ウェブサイトで高速船の欠航が確認できたので、結局宿出発は8時となった。

車で羽幌フェリーターミナルへ。フェリーは運航した。8時30分出航。甲板上で海を眺める者もいたが風雨は強く冷たい。霧が深く焼尻島も近づいてやっと見えた。9時30分焼尻島。



自転車レンタル完了！いざ出発！

港でレンタル自転車を借りる。余計な荷物はレンタル自転車屋に預けた。自転車は久しぶりという人もいて皆大はしゃぎである。小降りになるのを待って10時30分出発。会津藩士の墓の前



会津藩士墓前で般若心経を

で味澤さんが般若心経を唱える。最初小雨だったが途中から

本降りとなった。森を抜けるとめん羊牧草地。ただ羊はいなかった。11時50分鷹の巣園地。展望台からは霧で何も見えなか



レンタサイクルのおばちゃん



晴れていれば・・・



白浜野営場

った。ここを過ぎると下り基調。白浜の海岸線が見える。晴れていればさらに爽快だろう。エゾカンゾウが咲いている。白浜キャンプ場にマクドナルド日本最初の上陸地の看板。一瞬あれ？マック？と皆が思った。ペリー来航前に来日して日



本で最初の英語教師となった人物だという。12 時 45 分港に戻る。



鷹の巣園地で



海鮮カレー

昼食はフェリーターミナルに戻って唯一開いていた「島っ子食堂」で食べる。海鮮カレーかもずくラーメンを注文した。ここで豚丼の豚が品切れでラム肉になるというのを聞き間違えて、ラムネがサービスでつく勘違い。皆でラムネを待つがでてこない。催促して勘違いがわかり皆で大笑いした。午後は近くの旧小納家住宅へ出かけた。当時としては豪邸である。九谷焼といわれる陶器製の便器に一同感心しきりであった。



羽幌町焼尻郷土資料館前で





焼尻島フェリーターミナル



天売島フェリーターミナル

14時30分港に集合。少し遅れて15時20分出航。天売島を目指す。15時50分天売島入港。天売島の港では「民宿竹内」の女将が看板掲げてお迎え。ただ車が軽自動車というのでおおかたの人は荷物だけ預け歩いて宿に向かった。宿に着くと急いで交代で風呂に入り17時30分から早めの夕食。7000円台の宿泊料金とは思えない豪華な夕食だった。贅沢を言えば解禁前のため生うにがなかったことが唯一残念。



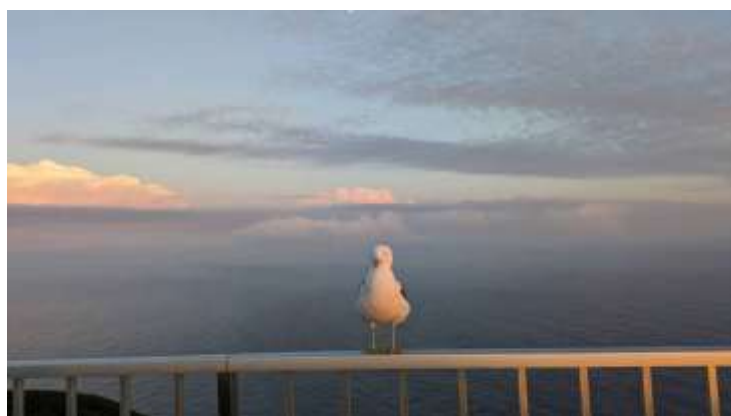
民宿竹内で早めの夕食

18時30分宿にツアーのお迎え到着。なんとガイドはネパール人とスリランカ人。ネパール人ガイドのジーバンさんは4月に坂本さんと私がネパールでお世話になった現地ガイドをよく知っていた。なんという偶然！しかし外国人が日本で日本語で日本人のガイドをする時代になったことがさらなる驚きであった。

ウトウ繁殖のナイトツアーは、雨も上がり今回の旅行中唯一見ることでできた美しい夕日を眺めながら、えさをくわえて巣に戻るウトウと

それをねらうカモメたちの攻防を見学した。自然界で生きていくことの厳しさを目の当たりにして、皆ウトウやカモメやらを応援した。一時間ほど見学して宿に戻った。宿で持ち込み酒を楽しみながら任意参加の二次会に。

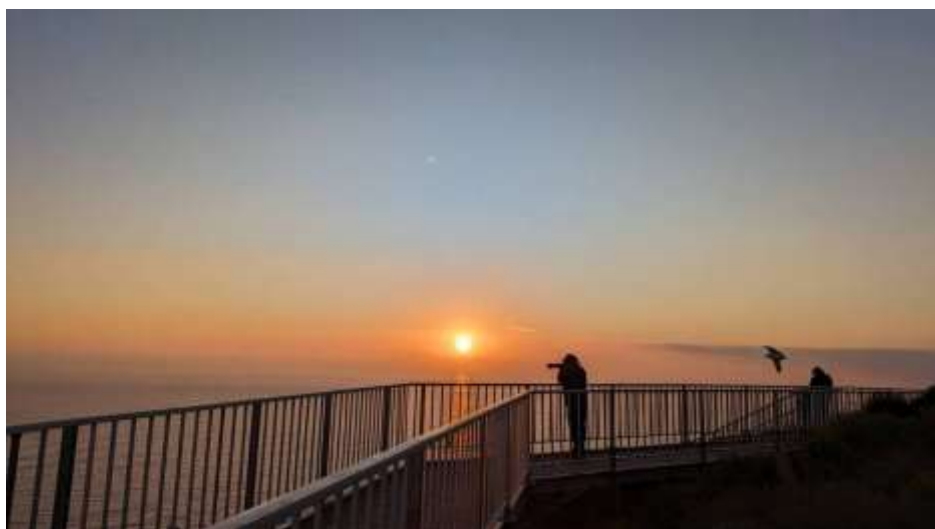
(笠井浩 記)



本日の主（悪!?）役のカモメ



本日の主役ウトウ



夕日の中ウトウの帰巣を待つ



二次会突入！



《4日目（6月19日）》 天気 曇りのち晴れ：天売島

朝食7時、出発8時、宿泊した民宿竹内で集合写真を撮り、朝の歌「銀色の道」を歌って天売島一周歩行をスタートしました。島東側先端まで行って、地理院地図にある登山道を進みましたが、整備されていないため藪漕ぎとなりましたが、30分ほどで灯台につきました。その後は緩やかな登りの車道を進み、観音崎展望台に立ち寄りました。その後は緩やかな下りの車道を進み、海鳥観察舎、赤岩展望台、黒崎海岸などに立ち寄りました。

平坦な車道を進み、明治後期の鯨番屋などに立ち寄り、天売港前のめん処漁師の店「海友丸」に13時に到着して、昼食をしました。



民宿「竹内」前で



灯台めざして藪漕ぎ



灯台の下で焼尻島を望む



赤岩展望台



観音岬展望台

昼食後は、海の宇宙館に行って、海鳥の写真と展示を見ました。

天竺港 15 時 50 分発のフェリーで羽幌港に戻り、道の駅はぼろの温泉 〆入浴して、3 泊目となる旅館に戻りました。旅館の夕食は創作料理で美味しくて皆さん大満足でした。

夕食&交流会では、2 日間の離島旅の感想を出し合いましたが、いろいろな面で新たな発見の旅となり、全



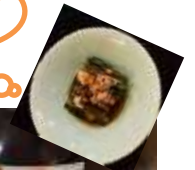
海鳥観察舎で昨日のガイドのジーパンさんと再会

員が大満足した旨の発言がありました。

また、有益情報の提供では、森さんが「82歳の人生を振り返って今思うこと」、渡辺正敏さんが、「アルコール摂取」について、資料をもとにお話をいただき、参加者は大変参考になりました。

参加者全員が2日間楽しい時間を共有できました！ (坂本徹 記)

島に行く前に私たちが採った蕨を女将さんが調理してくれました。



《5日目（6月20日）》 天気 雨時々曇り：遠別町役場→66.5 km→こうほねの家



料理旅亭「富士屋」



出発前に「鉄腕アトム」の大合唱

ホテルの朝食は7時00分から、各自朝食を済ませて7時50分にホテルロビーに集合。ホテル前で集合写

真、今朝の歌（鉄腕アトム）を合唱して8時00分出発。途中レンタカーにガソリン給油し、各班のスタート地点へ。

【チーター班：遠別町役場→19.3km→道の駅てしお】メンバー：笠井浩、笠井初子

9時20分遠別町役場から皆に見送られてスタート。何度か海岸に出てみたが、堰堤やテトラポットが続いておりられなかった。悪天候なので砂浜歩きはトライせず、国道と海岸の間を走る農免道路をひたすら歩く。ま



っすぐな道に電信柱が同じ間隔ではるかかなたまで続いている。人は全く見かけず見るべきものもない。

時折ダンプカーが行き交うだけ。小雨だが風は強く冷たい。

10時10分ウツツ川、10時40分キビタナイ川、それぞれ橋を渡る。

10時45分牧草地が広がると思っていたら牛舎があり獣医師がエプロンを付けて牛舎内に入っていく姿を見かける。11時、強風と雨が強くなりカッパを着る。舗装道路からジャリ道に入るここも何処までも続くよ

ひらすら続くまっすぐな道

うなまっすぐな道、両側に草原が広がる。

12時15分しおみばし（川名不明）手前の民家の片隅で昼食をとるまでほとんど休まず歩き続けた。20分ほど休んでからだ冷えないうちに歩き出す。

13時10分ジャリ道に入る。工事道をトラックが頻繁に行き交う。

13時15分天塩港。

13時20分睡蓮が咲く鏡沼が美しい。隣接するキャンプ場にテントは一張もなかった。白い屋根、オレンジ色の可愛いバンガローが続いて建



睡蓮が咲く鏡沼



遠別町役場スタート

っていた。近くには、はまなすの丘がある。道を渡るとすぐに天塩川の河口。



天塩港

天塩川河川公園を歩く。川は延々と続く砂洲をはさんでようやく海にそそいでいた。興味深い地形である。ゴールの道の駅てしおには14時に到着。ゆっくり休んでからウサギ班との合流場所に向かった。

（笠井初子 記）



天塩川



「道の駅てしお」ゴール！

【ウサギ班：道の駅てしおー15.2 km→北緯 45 度モニュメント】メンバー：味澤俊治、岸田英子

9:46 道の駅てしお出発。赤レンガの建築物（旧役場 天塩歴史資料館）前より天塩川に向かう。

10:09 天塩川河口確認 距離から徒渉は断念

10:15 河川公園より川観察 利尻富士の姿無く 濁流

10:25 神威岬地震慰霊碑（昭和 15. 8. 2）に手を合わせ
能登半島地震を思う。

天塩厳島神社境内を散策。社務所に車と高齢者独り。
海側の林の中に川口遺跡。復元された竪穴式住居が 2
基あり、内に入り休憩する。炉後、薪あり、2m 程下
がった土間は、心地よい温度で滞在しても良いと思え
る居住空間であった。

232 号道を天塩川大橋に向かう。風力発電設備が続き
砂丘地帯の地形を確かめ進む。雨がぱらぱら降り出し早

めに雨具着用。傍の電柱先より「ぎしぎし」と長く金属を擦るよう
な音。鳥が鳴いているようだが姿は確認出来ず歩き出す。

12:01 砂丘の中のハマナス、エゾカンゾウ、ユリ越しに日本海を見る。
日本の河川 4 番めの天塩川を楽しみにしていたが、大橋渡りは風雨強
く歩きに必死で観察は出来ず残念！

12:49 里浜駐車場。トラック 1 台のみ。建物があつたが赤字の使用禁止
の看板。強風雨を避ける場を外側で探し、急ぎの昼
食を取る。

13:38 浜歩き出す。ゴミ多くの中 鳥の足跡をたぐ
り歩く。風力発電設備が続く。

14:09 チーター班笠井さんよりゴール到着とうさ



「道の駅てしお」からスタート！



天塩厳島神社



川口遺跡

ぎ班の到着時間の問い合わせの連絡あり。1時間15分後にと返信する。

14:31 浜より味澤さん先導で藪漕ぎして道に出る。ハマナスの刺が鋭くチクチク痛い。駐車場に出てゴールの北緯45°モニュメントに向かう。

15:16 国道40号分岐でチーター班笠井さんの車通過。

15:28 うさぎ班ゴール到着 笠井さんが迎えてくれ嬉しい

サロベツ湿原センターで鳥の鳴き声を再生し、鳴き声の主「オオジシギ」と判る。くちばしが長く、ムクドリより大きく、鳴き声と名前が似た初めて出会う鳥。歩いてこそその五感刺激です！

(岸田英子 記)



風力発電設備が立ち並ぶ海岸線



北緯45°モニュメントにゴール！

【カメ班：北緯45度モニュメント→12.2km+α→稚咲内海岸】メンバー：坂本和子、森正昭、渡辺正敏

歩行2日目。今日のメンバーは坂本・森・渡辺の3名。休養たっぷりで北緯45度モニュメントから稚咲内海岸までの12.2kmの予定だが、稚咲内海岸に駐車場が無いとの事でハヤブサ班と一緒にゴール地点を確認に行く。方向転換の出来るやや広くなった海岸に降りる側道に車を停めることになり、約2km延長で歩く距離は14kmほどに。中間地点の稚咲内漁港付近に信号と5、6軒屋根のある建物以外は何にもなさそうだ。



(10:50) 北緯45度モニュメント出発。今日も風が強くて、北緯45°モニュメントからスタート！



砂浜に降りる

雲が低く利尻は見えない。すぐに海岸線の砂浜に降りて歩くことに。砂浜は広く、動物(犬?)の足跡のみで人の足跡はない。多数のゴミと流木があり歩きづらい。10分ほど歩くと小雨が降りだしカッパを着ることに。風雨の強い海岸線での着替えは困難を極める。15分も歩くと靴下がびしょびしょで、国道へ戻って真っすぐに伸びたオロロン街道を北進する。冷凍トラックや工事のダンプカーが多数高速道路並みに往来し、通過後の水しぶきが辛い。避けてくれた車やバイクには手を振って感謝の意を。

(11:36) 国道から山の方へ行く側道で最初の休憩。

(12:40~12:50) 側道で立ったままの昼めし。



オロロン街道

(13:46) 中間地点
の稚咲内漁港通過。

唯一信号機あり。右へ曲がるとサロベツ原野だ。

(13:51) サロベツ海岸到着。屋根のある稚咲内トイレでしばし休憩。

(14:10) トイレ出発。1Km を 15 分ペースでただ黙々と歩く。南の空は明るいのに、向かって北側は真っ黒な雨雲で利尻は見えない。森さんの楽しい会話で歩く勇気が出る。直線なのに車はなかなか見えない。

(15:03) エゾカンゾウのお花畑を撮影しながら進むと、直線の彼方に白のステップワゴンが見えた。

(15:07) ゴール地点到着。雨風の中、座るところもほとんどなく、立ったままの休憩・昼めしでほぼ4時間歩き通しでした。
(渡辺正敏 記)



ゴ〜〜〜ル！

【ハヤブサ班：稚咲内海岸ー19.8 kmーα→こうほねの家】メンバー：坂本徹、米澤俊枝、小川万理子



雨合羽を着込んでスタート



スカシユリと〇〇エンドウ

下見した稚咲内海岸の空き地に駐車。11:10 出発。雨が降ったり止んだり雨合羽を着る。国道を避け一本陸寄りの牧草地の農道を延々と歩く。道端の花々（ピンクのハマナス、オレンジ色のスカシユリ、白いマーガレット、紫色の〇〇エンドウ）が緑色の葉に綺麗に映える。国道に交わって後 12:30。海辺に向かって草



流木とゴミの中ランチタイム

をかき分けながら降りた。砂浜に出たので昼食。12:40。暗雲たれ込める中流木とゴミの中で食べている坂本さんの後ろ姿は、なんか〜ね〜。ここから延々と砂浜を歩く。砂は雨で締まり歩き易い。小さな川に出合い1回目の渡渉 13:18。流木を杖にして丸太の上を渡る。2回目の小川出現 13:54。坂本さん丸太を渡そうとするも・・・渡渉断念！。と、諦めきれず上流を見るとゴミの山の箇所発見。高巻きしてゴミの中を渡渉？成功！14:10。砂浜には流木のオブジェあり・陸側の高台には鹿の群れあり。利尻島がすぐそこに見えるはず〜と言いながら黙々と歩いた（利尻島へは最短距離の海岸）。3回目の小川出現 15:30。頼りの坂本さんは〜、はるか後ろをスマホ操作しながら歩いてる。（他班から次々とゴールのメールが入り、その対応に追われていた）。仕方ないので、万理子さんに適当な丸太を掘り出して渡したら、うま〜く川に放り込んでくれた。すかさず「杖！杖！」と言われ、慌てて杖になりそうな流木を探した。無事二人で見事にクリアー！。後から到着した坂本さんは、そこを楽々と渡った。大きな川に出合う手前で浜辺から上がったら畑に出た。15:50。やぶ漕ぎせず国道に出てゴールまでの2kmを最後の力を振り絞って歩いた。ゴールの「こうほねの家」に 16:20 到着。

(米澤俊枝 記)



徒渉成功！



徒渉断念！



広大な畑



こうほねの家ゴール！

《6日目（6月21日）》 天気 雨のち時々曇り：こうぼねの家→61.1 km→宗谷岬

朝食後ホテル前で記念撮影。今朝の歌は「宗谷岬」。ゴールしてから歌うことにして、今朝の出発点「こうぼねの家」へ全員で向かう。「こうぼね」とは、夏になると長い花柄の先に直径3～5 cmほどの黄色い花を咲かせる水草。裏手のこうぼね沼に時期よくさいている。屋上からは日本海越しに利尻富士が見えるはずだがあいにくの雨で全く見えなかった。



朝食風景



こうぼねの家



こうぼね

【ハヤブサ班：こうぼねの家→19.8 km→稚内温泉童夢】メンバー：笠井浩、味澤俊治

朝から、激しい雨。宿を8時10分に車で出発。ハヤブサ班、「こうぼねの家」を10時20分に出発するも車キーの所持トラブルで10分ほど開始が遅れる。出発地点は、今回の歩行で何度もみる光景からはじまる。それは、海に近づいた河川が出口をさがすよ



こうぼねの家出発



うに海岸線に並行して流れ、そのあいだに大小の細長い砂丘に挟まれた湿地や潟湖を形成するというもの。サロベツ原野の西側の海岸線はこのような地形によって形成されている。我々二人は、



雨のなか「抜海漁港」まで砂浜をひたすら歩く。砂浜は幅 5～20 メートル、カモメがたくさんいる。波の来ない浜はハマナスに覆われている。この港

は、地図にない巨大な砂丘と大きな河川がその際を分断している。そこをジャンプしてわたる。地図に全くない河川に出会うのは初めてである。

12 時 15 分、「抜海港」のログハウスの軒を借りて昼食。とても寒く。味澤は手がかじかんでウインドブレーカーのチャックがなかなかしめられない。このあと、道路に出て「クトネベツ川」にかかる「富士見



橋」を渡る。雨で濁った水流が河口に向かって豊かに蛇行している。以後、右の山側の低木の樹林帯の斜面にときどき鹿が数匹顔をみせる。道路の左側には、サロベツ湿原を細長くしたような景観がひたすら続く。ときどきエゾカンゾウの群落、湿原の草地にまみれるように細長く湖池がつらなる。その向こうに大小の砂丘が続いている。渚は見えたり見えなかったり、遠く利尻富士が見えるはずだが、、13 時 44 分、意を決し湿地の狭いところを抜けふたび浜に出る。背後に抜海港をみながら「西浜」集落まで今回最後の砂浜歩き、14 時 10 分まで歩く。そのあと、ひたすら「稚内童夢温泉」まで歩く。15 時 30 分到着。スバルの鍵の回収に手間取る



も、16 時 15 分に声間岬（なんとナビに表示がない！）でチーター班をピックアップ。

稚内温泉童夢到着！

（味澤俊治 記）

【チーター班：稚内温泉童夢→16.9 km→声間岬】メンバー：坂本徹、坂本和子

10 時 55 分雨風強い中、稚内温泉を出発、傘も差せない程の横殴りの雨である。すぐに海岸線に近い堤防を歩く。途中木で組んだ三段位の櫓のようなものが何棟も並んでいる。棒鱈の干場のようなのだ。

11 時 30 分、恵山泊漁港手前で道路に戻る。右側の高台には、航空自衛隊の緑色の防衛施設が見えている。周辺は廃屋も多く、鹿が民家のそばで草を食べていた。





11 時 50 分、野寒布（ノシャップ）岬に到着、漁港の目の前には、ウニ井の店が数軒、軒を並べている。寒流水族館や、稚内灯台、南極越冬隊の資料展示コーナーなどがあつた。雨をよけて昼食。ノシャップ岬で折り返して、地形通りに道路を南下し稚内の中心地に向かう。ようやく雨も止んできた。右の緩やかな丘の上に氷雪の門のモニュメントが見えてくると、間もなく稚内港北防波堤ドームに 13 時 35 分到着し、フェリーターミナルや稚内駅を見て回る。この辺りは、恵比

須、宝来、開運、大黒、末広などと、目出度い地名のオンパレードだ。先人達が願いを込めて名付けたものだろうか？

14 時 55 分、ウエンナイ川を渡った先で再び海岸の堤防を進む。振り返ると、歩いてきた稚内の街がノシャップ岬の灯台からぐりと見え、前方にはこれから向かう声間岬の出っ張りがかすかに見えている。堤防上で犬の散歩をしている人に、「今日は本当に寒いですね」と声をかけられた。気温は 10℃前後だろうか？地元の人も驚く寒さであった。

15 時 40 分、国道 238 号から左に分かれて声間岬に向かう。

15 時 55 分ゴールの声間岬らしき所には、何の案内も碑も無く、突先まで行ってみたがやはり何も無く、少し戻ってウサギ班のスタート地点をゴールとした。

(坂本和子 記)



南極越冬隊資料展示コーナー



稚内港北防波堤ドーム



ゴール地点で



【ウサギ班：声間岬→12.8 km→稚内市立富磯小学校】メンバー：米澤俊枝、岸田英子、渡辺正敏

声間岬（青い家の前）から 11:25 出発。しばらく川を遡って歩く。まもなく国道 238 号に出会う。しっかりした歩道あり。風が強いので海沿いを歩く気にならない。『声間緑地公園』で風を避けながら昼食休憩（トイレあり）12:15～12:30。再び国道を歩き始めてまもなく『稚内空港』が右手に見えてきた。12:50。空港の長い滑走路に平行して歩く。1 機が丁度空港を飛び立った。しかし垂れ込めた雲の中へ爆音だけを残しすぐ消



声問岬 目印の青色の家からスタート

えた。「増幌」の標識地点で海岸へ通じる道があり降りてみた（唯一浜に出た箇所）。13:30。宗谷岬方面をバックに写真を撮るが背景は暗い海と空のみ。国道を歩く歩く。岸田さんの歩きが快調だ。後ろ姿が以前よりバランスが良いと感じた。正敏さんと二人休憩とも言わず快調そのもの。最後尾に行く私はもう疲れたな〜、丁度その時神の助け。ペンション「アルメリア」が出現！トイレを借りに入り、ソフトクリームで休憩。14:20〜14:45。ソファで癒しの音楽を聴きまったり〜。ご褒美ご褒美。至福のひと時だった。「たつみ食品」駐車場にゴール

15:10。車で宗谷岬を目指す。途中カメ班が歩いているのを手を振って追い抜いた。（この優越感を誰もが一度は味わいたいのだな〜） 宗谷岬でカメ班を出迎え、「日本最北端の地」碑の前で写真撮影。丘の上に移動し「宗谷岬」の歌の練習。他班が到着するのを待った。（米澤俊枝 記）



声問緑地公園



あちらが稚内空港でございま〜す



富磯小学校ゴール



【カメ班：稚内市立富磯小学校→11.6 km→宗谷岬】メンバー：笠井初子、森正昭、小川万理子

11 時 26 分ウサギ班を声問岬で降ろすが岬の目印が見つからなく手間取る。出発予定の小学校に車を停める事が出来なく、近くのたつみ食品（株）さんの、駐車場に車を置かせて頂く。森さんの交渉と交流によりご厚意に甘えさせて頂きました。昼食は車の中で済ませて 12 時 17 分出発。駐車

予定の小学校を通り、セイコーマートでトイレ休憩を済ませる。ここでも森さんが地域の方との交流をする。

12 時 53 分宗谷岬まで 10km 地点。



宗谷岬まで 10 km地点

13 時 05 分不動のお水（カネクロ伝説）。

13 時 15 分宗谷 1 のバス停留所（バスは 1 日 4 便、屋根のあるバス停で快適）で雨が強くなり雨宿り休憩。

13 時 38 分宗谷漁港。

13 時 40 分宗谷小学校。宗谷ヒ 駐車場をお借りしました～ ストリートロードを歩く。



宗谷漁港

14 時 02 分網走まで 300km の看板。

14 時 07 分史跡オニコロマイ 2 遺跡。

14 時 20 分奥頃間内、宗谷バス停内で休憩。追い風、強風あり、寒い。

14 時 50 分間宮林蔵、出船の地碑。（間宮林蔵は 2 度にわたって樺太を探検した。1808 年 1 度目は宗谷を出発、ミラヌシから宗谷に戻る）

15 時 10 分ウニ獲り漁船？にカモメ？が群がっていた。

15 時 20 分弁天島が見える。平島は平らであれかな？という位で何処にあるかはつきりと確認は出来なかった。あと少しでゴールの宗谷岬とルンルンで進んでいたが、15 時 30 分宗谷岬まで 200m先左の看板の前に



弁天島

ウサギ班が乗った車に抜かされた。

15 時 38 分日本最北端、ゴールの宗谷岬到着。全員揃ったところで記念撮影。

その後、岬の高台で宗谷岬の歌を全員で歌っていたところ、歌の予行練習では反対側にばらばらになっていた牛が、歌が始まるとこちらを向いて一列に整列して歌を聞いている。その姿がおかしくて歌っている全員が笑い転げた。一生忘れられない出来事でした。



（笠井初子 記）

最終ゴール宗谷岬



宗谷岬を見下ろす高台で「宗谷岬」の大合唱。なぜか放牧中の牛が集まって整列してギャラリーに



最終日
稚内「なら鯨」で打ち上げ



《7日目（6月22日）》 天気 雨：宮の台展望台、サロベツ原生花園

ホテル前で写真撮影の後、宮の台展望台へと向かう。晴れていれば目の前に広がるサロベツ原野、その向こうに雄大な利尻山が望めるはずだが・・・あいにくの雨。ガッカリの私たちを慰めるかのようにキタキツネの子どもが3頭、姿を見せてくれた。

近くのトナカイ牧場でトナカイを見る。

サロベツ原生花園を散策して12時半頃に到着するよう稚内空港へ向かう。

空港でこのツアーの延長「利尻・礼文ツアー」参加者と合流。昼食を共にした後、レンタカーを引渡し、天気が良くなることを祈りつつ解散。飛行機組は羽田空港へと向かい、マイカー組は小樽へ向かう。



ホテル美雪前で



宮の台展望台



サロベツ原生花園





前半組・後半組全員集合

7. 参加者感想

【森 正昭】

今回の歩行では、「サロベツ原生花園から見た利尻島」の絵葉書写真を撮りたいと思っていた。そこでの問題は天気である。出発前の天気予報では、北海道・稚内地方は薄日が差す日もあるが見通しは暗かった。

6/17（月） ウサギ班は、米澤リーダーと岸田さん、森の3人での歩行。初めてお会いし、米澤さんは千曲市から、岸田さんは葦崎からの参加と聞いた。日常生活や山歩きの話をし、今回参加への思いを聞いているうちに、すぐに10年来の知己のようになった。

留萌から天塩一帯はかつてニシン漁で栄え、当時の繁栄振りが小平の旧花田家ニシン番屋や焼尻島の郷土資料館（旧小納家）で見られた。また、羽幌町近くの羽幌炭鉱は、かなりの埋蔵量を残しながら閉山（1970年）となった記憶が蘇ってきた。帰ってから調べたことだが、国鉄民有化により廃線の流れは急速に進み1987年留萌～羽幌線が廃線となっていた。歩行途中に見た、夏草に覆われた廃屋、廃校となった小学校は、人家が少ない地域だけに一層気になった。また、自分が育ってきた歴史の断片を振り返えさせる歩行でもあった。

留萌管内では各町や市ごとに Driving & Walking マップが作られ、すぐに入手できた。夫々をつなぐと「オロロンマップ」となり、なかなかの優れものだった。

日本海からの風を利用した風力発電の風車も、心に残った。四国・愛媛県を歩いた時も風車が多かったが、ここ北海道が設置台数は一番と思った。20機程度が点在し続いている。しかし後日調べてみると青森県が一番のようだ。2005年に、「ユーラシアを歩く旅」で新疆ウイグルの砂漠地帯を歩いたが、風力発電の風車が行けども行けども連なり、400機と聞いた。その後それが数年後には1000機に増えたそう。それに比べると、この規模が違った。参考にとネット情報を見てみた。全国の電力量の比率は2022年で火力/72.7%、水力/7.6%自然エネルギー/14.1%で風力発電では0.87%と、まだまだである。

天売島・ウトウ繁殖地の見学体験は、予想外の面白さだった。夕方にツアーの案内人が迎えに来て、繁殖地まで連れて行ってくれた。なぜ夕方なのか？説明によると、ウトウとはアイヌ語で嘴横の「突起」という意味、鵜飼いの「ウ」とは関係ない。ウトウの親鳥が夕方雛の待つ巣穴に、イカナゴやイワシを運んでくる。その魚を狙って、セグロカモメやウミネコが横取りするというのだ。親鳥の数は40万羽で増えているそうだ。海面に目を凝らすと、ウトウが点々と浮かんでいるのが見えた。そして、説明の通りにウトウが飛んできて、イタドリの林の中にどさっと飛び込んでいく。その途中で、横取りしようとする盗賊たち。こんな説明をしてくれるガイドは、ネパールの人たちで、現地在雨期で登山ガイドの仕事がない間は日本に来ていという話も面白かった。

途中で見た巨大なオロロン像は、別名ウミガラスでカラス程度の大きさ、絶滅危惧種だそうです。

翌日歩いて全島一周、赤岩の繁殖地付近で、マムシを見つけた。長さ1m以上もあり、栄養満点の太さに



驚いた。ここの自然界は、海の豊かさ、海鳥の繁殖地、イタドリの群生がセットになっていた。

天売島で変わったホトトギスの鳴き声を聞いた。帰ってきて、ラジオ深夜便を聞いていたら、ホトトギスの北限は函館あたりまで、それ以北はエゾセンニュで「トッピンカケタカ」と鳴くという。

残念ながら、1週間の滞在中、とうとう利尻島は雲の中であった。また次の機会にということだろう。

綿密な計画を立ててくれた坂本さんはじめ、同行の皆さんたち、楽しい旅を作り上げていただきありがとうございました。宿の選定もよかった。とくに羽幌町の富士屋旅館、食事がおいしいし、女将のホスピタリティもすばらしく、また泊まってみたいと思った。

【味沢 俊治】

空港から帰りのリムジンバスに乗るときのことだ。ひとりはスーツケースに行先タグをつける男性、もうひとりは乗客にバスの注意事項をインフォメーションする女性である。二人はともに「外国人労働者」だった。40年近いこのリムジン利用のなかで初めてだった。

あわてて購入したチケットの行先「所沢駅」に「東」と漢字で書きたしてくれたのが彼だ。「東所沢駅」を「所沢駅」と間違えて購入したのである。そのあとバスに乗ってきた女性のつたない日本語の説明をきいて、はじめてふたりがともに南西アジア系「外国人」であることを意識した。10年にもなるだろうか。コンビニでベトナム人の若い女性がレジ打ちをするのは当たり前風景になった。欧州に遅れること半世紀、いま「外国人労働者」を身近な隣人として受け入れる条件は限りなく広がっている。

とはいえ、いま、彼らをどのように表現するかは難しい。東南アジア系の人々と区別して、目鼻立ちのくっきりした朝黒い風貌の彼らを総称して表現する語彙を、私は「バングラディッシュ人」としか持たない。それは、アメリカで日本人が「チャイニーズ」か「コリアン」と呼ばれるように、無知で偏見に満ちた表現であることは十分に分かっているつもりである。しかし、地理的に西南アジア系の人々を総称するのに、日本語はわかりやすく座りの良い表現をもたないのである。

天売島ウトウ見学ツアーのネイチャーガイド、ジープンさんたちの風貌は、まさにそういう外国人だった。驚いたことに、彼らは、坂本さんと笠井さんが先日お世話になったヒマラヤ・トレッキングの現地ネパール人ガイドと西遊旅行社のガイド仲間だった。

北海道海岸線歩行のバリエーションのひとつにいれた、北海道の離島での日本人への自然ガイドツアーをネパール人が担っているのである。なんたる現実。これには、私の頭もしばし混乱した。ウトウの生態についての分かりやすい説明、こちらの質問への的確な回答、誠実で知的なその日本語での対応も申し分ない。

「外国人労働者」という枠組みではもはやとらえられないところに彼らはいる。「グローバリゼーション」「経済のグローバル化」

「インバウンド」などという言葉は、薄っぺらで安直すぎる。もっと深くて大きな波の中に私たちはいるのかもしれない。

国際化が大きく進むなか、私たちが「日本人」と「外国人」と



いう境界を意識し、それを越えようとする以上に世界は変わり、内と外の壁は小さくなり、融合し新しいものを生み出しつつあるのかもしれない。あと 30 年私は生きるだろうか、その時の日本社会が今と同じであることはありえない。旅は、自然との出会いを越えて、ときにこういう得がたい体験や発見を私のなかにはぐくんでくれる。北海道海岸線歩行が、こんな楽しい感想や考察を引き出してくれるのはありがたいことである。坂本さんとジーバンさんとの穏やかでフレンドリーなやり取りを思い出しながら、あらためてそう思った。

【米澤 俊枝】 又、来いと言うこと

梅雨のない北海道だったはずなのに・・・。大部分を雨合羽で行動した 1 週間でしたが、それも全く苦にならない充実した 1 週間でした。羽幌町の「金時羊羹」一つでも話題があります。焼尻島のサイクリング・天売島のウトウ・3 連泊した「富士屋」・3 日間の海岸線歩き・宗谷岬の黒牛・サロベツ原野・「ゆめ地創館」・・・等々話題に事欠きません。これで利尻島が見えていたら、などと言ったら罰が当たりそう。今回が初対面の森さんが言われた「又、来いと言うことだよ」を、胸に落としました。

海岸線歩きは今回で 3 回目。この 3 回で江差～宗谷岬までをくまなく見歩くことができ、離島も奥尻島・天売島・焼尻島と立ち寄ることが出来ました。行ってみて初めて知ることばかり。新しいことを知ることは何て面白いんだろう！。リーダーの坂本さんが高価な「金時羊羹」を皆に共通経費で買ってくれました。「メンバーに良いものを提供して上げたい」の象徴的出来事ですね。天売島一周巡りで疲れて食べた羊羹、美味しかった～！

坂本さんはじめ歩くことの大好きなメンバーの皆さん、ありがとうございました！



【坂本 和子】

今回は宗谷岬をゴールとする日本海側の海岸線で、JR も無く、車で通過すると景色はほぼずっと同じという地域です。いくつもの町村を継いで行くのに、これと言った特徴も見いだせないまま通り過ぎてしまう所を、一部とは言え歩くということで何かしら車では見落としがちなものが見られたのではと思います。

久し振りの天売島、ウトウの夜の帰巢は健在で数も増えたように思うし、オロロン鳥がデコイではなく、本物が帰ってきたことも嬉しかった。焼尻島の雨のサイクリングはめったにない体験でしたし、網元の鯨御殿にも目を見張るものがありました。

一番印象的で、且つ楽しみにしていたのはサロベツの原生花園、まだ時期的に早いのではと思っていまし

たが、道路端の草地はハマナスやエゾカンゾウ、スカシユリなどの大お花畑。まだ春先のような寒い日もありながら、短い夏に先駆けて一斉に咲き競う様子は圧巻でした。原生花園には境界というものがなく、全てが原生花園、その中に人間が入り込んだという印象です。本州で言えば高層湿原のような自然条件、その中で生き永らえる植物と生活を営んでいる地元の人々にも頭が下がります。

原生花園や道路沿いの花が、一番素晴らしい時に彼の地を訪れることが出来たことに感謝しています。

天候に恵まれない日もありましたが、地図を頼りにそれなりに楽しむことができました。又、宿泊した旅館も食事が素晴らしく、朝晩の食事はとても楽しみに頂くことが出来ました。温泉もまた然り、北海道の中心地から遠く離れさびれた印象のある道北の街ですが、どうしてもどうしても、その土地ならではの豊かな生活がありました。



【岸田 英子】

利尻礼文サロベツ原野 湿原にバイケイソウ カキツバタ エゾカンゾウが美しくさき 長野 霧ヶ峰車山に通った 20 年程前が思われました。夏を告げ 星降るごとく キスゲが咲き、ほかにも山の花々が美しい高原歩きは今はありません。

霧深く遭難事故があり 慰霊碑がある霧ヶ峰 湿原も大きく変動 乾燥が進み 鹿が捕食し花々は無くなり 保護柵の中に何とか花を見るような高原に変わり コロポックルヒッテ創設の手塚 宗求 作詞佐藤宗幸の唄う「キスゲに寄す」にある 花々の世界 ジャケット写真の姿は無い 自然環境の変化には驚くばかりです。サロベツ湿原センターのパンフレットにも湿原の乾燥化により 本来無いササが広がり 自然が失われているとの記述に気候変動が北海道にもあります。

礼文島 利尻富士の観ない 雨降る中の行動は驚くばかりです 植物 鳥 虫 生きものが生きていく自然環境が常に変わっていることが身近です 味澤さんの提案で幌延深地層研究センター 無料で視察 説明を受けました。自然環境の美しい北海道に 核燃料 放射性廃棄物の処理の安心安全な理論的な説明はしっかりありますが 幌延町は廃棄物の受け入れ 使用は認めず 地下施設研究 終わりには埋め戻すこと 放射性廃棄物の最終処分場 中間貯蔵施設にしないと約束しての研究センターです。福島原子力発電所の廃棄物は増え続け 高放射性物質デブリにもなかなか手が着かない 原子力発電利用には 不安 疑問が増えるばかりです。原子力発電 核燃料の利用が生きものの環境を自然を壊すことを無視して進んでいます 放射性物質が処理は実現至らずにいます 被



爆の影響は 子 孫 曾孫どれ程続くか大きな心配・不安なことです。

歩行しながら 自然を感じ 大切さを感じます。ゴール到着宗谷岬、最北端にはたくさんの人が訪れ「宗谷岬」の合唱を上になりました 黒毛和牛が並んで私たちを見 聞きする様には、珍体験し 笑ってしまいました 生きものの交流です

【笠井 浩】

北海道海岸線歩行参加3回目。普段一人旅が多い私にとっては嵐のような一週間だったが、にぎやかな旅もたまには必要だと思った。

天売のウトウ、宗谷岬の牛、サロベツ原生花園のエゾカンゾウが特に心に残った。

天気には恵まれず、肝心の海岸線歩行はいまひとつだったが、とりあえず分担して宗谷岬までつなげられたのはよかった。利尻岳の眺めはドライブか鉄道旅行であらためて楽しみたい。

宿の食事もよかった。夜の宿の食事は旅の楽しみのひとつだと思った。

皆との再会を楽しみにしたい。



【笠井 初子】

北海道海岸線歩行参加は2回目でした。

梅雨が無いと言う北海道ですが海岸線歩行中ほぼ毎日雨に降られ、梅雨の様な天気でした。

海岸線歩行の他にもフェリーに乗って訪れた焼尻島のサイクリング、ウトウの帰巢ナイトツアー。海に沈む夕日が美しかった。天売島一周のトレッキング。子供の頃、急坂を自転車で下りブレーキが効かずに、林に突っ込み怪我をして以来下り坂を自転車で走るとはとても恐ろしい事でしたが、海を見ながらのサイクリングはとても楽しいものでした。

島で見つけた珍しい鳥の名前を知る事が出来ました。宗谷岬で出会った牛さん達も楽しい思い出です。この日本の北海道でネパールの人に日本語のガイドをして頂いたり、世界は、日本は、世の中は変化しているのだと驚きました。新な発見の多い海岸線歩行となりました。坂本さん、皆様お世話になりました。

ありがとうございました。



【渡辺 正敏】

昨年の小樽から小平のツアーに続き2回目の参加です。1回目は車のリレーやピックアップなどの様子が分からず、色んなトラブルがあり忘れられないツアーになりましたが、今回もほぼ同じメンバーで、稚内空港から始まりました。

今回宿泊した富士屋、民宿竹内、ニュー温泉閣、みんな食事がおいしくてよかったです。焼尻島・天売島もそれぞれ楽しかったです。ただ、残念だったのが天気です。利尻は一度も見る事ができず、また気温が低くカッパを二つ着ての歩行でした。風も強かったですが、追い風で助かりました。後は、建物がない、コンビニがない、トイレもない…。幸い熊には出会いませんでしたが、キタキツネや鹿や牛が見られてよかったです。特に宗谷岬の牛には感動です。毎日歌の練習をした甲斐がありました。

今回も、すべての行程を歩けたことに安堵した次第です。ありがとうございました。



【小川 万理子】

今回はレンタカーの代わりにキーも二つあるマイカーを利用してもらおうと、舞鶴港～小樽のフェリーを利用して車も一緒に参加させていただきました。フェリーの長旅は初体験。時間にさえ余裕があるならこんな旅もありだなあ。ただ、フェリー乗船中はスマホが使えないのが…。日頃スマホにどれだけ依存しているか思い知らされました。

一日を除いてお天気に恵まれず、利尻島を眺めながらオロロン街道をルンルンで闊歩するはずでしたが、利尻島は一度も見えず残念でした。乞うリベンジです。また、焼尻島・天売島も貴重な体験をさせていただきました。

♪～流水溶けて～春風吹いて～ハマナス咲いて～カモメも鳴いて～♪最後に岬を見下ろしながら合唱した私たちの「宗谷岬」が余程うまかったのか、牧場の牛たちが一斉に近寄ってきて一列に隊列を組んで聴き入ってくれた光景は、それまでの疲れを一撃で吹き飛ばしてくれました。だんだん。

〈編集後記〉

期せずして編集を引き継ぎました。

坂本さんのようにはいきませんが、精一杯頑張ったつもり。

坂本さんの労苦が身にします。

これまでありがとうございました。

小川万理子

